

ピアノ特別公開レッスン

リスト音楽院教授 グヤーシュ マールタ先生

グヤーシュ マールタ先生をお迎えし、ピアノ特別公開講座を開催しました

リスト・フェレンツ音楽院室内楽学科准教授・ソフィア王妃音楽大学ピアノ科 室内楽科教授・国際室内音楽研究所室内楽 ピアノ教授

～公開レッスン①～

大橋 采加(3年)

ベートーヴェン:

ピアノソナタ第26番 Op.81a

『告別』 第1楽章



ベートーヴェンのピアノソナタ『告別』のレッスンを通して、ベートーヴェンの人物像や強弱記号の考え方、ドイツ音楽についてなど、様々な講義をしていただきました。

～生徒の感想より～

・「オーケストラだったらどの楽器？」と考えることの大切さを教えていただきました。ピアノの演奏でも、そのフレーズが何の楽器かを想像することで、曲のなかの色彩感が鮮やかになり、最後まで惹きつけられる演奏になることを学びました。

・ベートーヴェンはmfやmpの感覚があまりない時代の作曲家と知りました。しかしその概念が存在しないわけではないので、自分なりのmf、mpを奏さなければいけないと教えていただきました。

・演奏者は指揮者となって、生まれてくる音に責任を持たなくてはなりません。たった1小節の中でもどこまでも音楽が広がる可能性があること、そして1小節ずつ丁寧に音楽を創り上げていくことで音楽が生氣のあふれたものになるという先生の教えを、これからも大切にしていきたいです。





～公開レッスン②～
浅野 純礼(3年)
ショパン:エチュード Op.10-4
ベートーヴェン:
ピアノソナタ第 17 番
Op.31-2
『テンペスト』 第1楽章

公開レッスン②では、作曲者の思いや願いを楽譜から読み取り理解することの大切さを中心に、テクニックの面でもご指導していただきました。

～生徒の感想より～

・ショパンのエチュードでは、マルタ先生から親指の大切さを教えていただきました。私は、いつもは小指側の指の独立を主に意識して練習していましたが、親指への意識が薄かったことに気づかされました。親指をたくさん動かすためには長い訓練が必要ですが、今日から取り組んでいきたいです。

・マルタ先生から、背中から指を押すとフォルテの音が硬くならないと教えていただきました。また、『ピアニストの手首はヴァイオリンの弓』と教えていただきました。柔らかく動かして豊かな音色が響かせられるよう、今日から意識していきたいです。

・エチュードでは、全部の音を均等に弾くのではなく、楽譜にかいてある記号や音楽の流れからどの音が重要なのかを見つけること大切だとわかりました。また、ペダルを活用すると和音の響きを聴くこともできるし、弾きやすくなると知ったので、ペダルをどこでどう使うべきかを自分で考えていきたいです。



(↑スタインウェイピアノとヤマハフルコンサートピアノ)

音楽科の公開レッスンでは、Zoom Q2n-4k ハンディビデオを鍵盤の近くに設置し、スクリーンに映し出します。聴講するすべての生徒が、先生の腕や指の様子を見ることができます。公開レッスンを受講する生徒だけでなく聴講するすべての生徒が自分の学びにつなげていきます。

今回の公開レッスンでは、
国際音楽交流会 Musica Con Tutti のみなさまにご協力して
いただきました。貴重な機会をありがとうございました。

